

県南高等支援学校（仮称）及び鹿本支援学校（仮称） の校名案について

このことについて、別紙のとおりとする。

（提案理由）

県南高等支援学校（仮称）及び鹿本支援学校（仮称）の校名案については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 1 号の規定により、教育委員会において定める必要がある。

【参考：関係法令条項】

●地方教育行政の組織及び運営に関する法律
（教育委員会の職務権限）

第 21 条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- （1） 教育委員会の所管に属する第 30 条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。

県南高等支援学校（仮称）及び鹿本支援学校（仮称）の校名案について

1 提案にあたって

令和元年（2019年）11月1日から11月29日までを募集期間として、校名案の公募を行い、県南144件、鹿本226件の応募があり、計2回校名案検討委員会（※1）を開催し、それぞれ別紙2、別紙3のとおり3案に絞り込んだ。

4月定例教育委員会では、それぞれの校名案を3つの案の中から1案に決定するもの。

※1 校名案検討委員会は、特別支援教育関係者、学校・保護者、地元関係者で構成

2 決定後のスケジュール

時 期	内 容
令和2年 4月	○4月定例教育委員会において3案から1案を決定。
令和2年 6月	<p style="text-align: center;">↓</p> ○6月議会において「県立学校条例の一部を改正する条例」の提案 ※議決後、公布 → 校名決定 <p style="text-align: center;">↓</p> ○7月定例教育委員会において「熊本県立特別支援学校の部、科、学科、当該学校が主として行う教育、修業年限等に関する規則の一部を改正する規則」の改正 <p style="text-align: center;">↓</p>
8月	○「県立学校条例の一部を改正する条例」の施行 ※学校設置、開校準備室開設 <p style="text-align: center;">↓</p>
令和3年 4月1日	○県南高等支援学校（仮称）及び鹿本支援学校（仮称）開校

県南高等支援学校（仮称）の校名案について

【共通事項】

検討委員会において、地域の方々に親しまれ、生徒を見守ってもらえるような校名がいいという意見から、「鏡（かがみ）」「若鮎（わかあゆ）」が選ばれた。また、生徒が書きやすい校名がいいという意見から、ひらがな表記も選ばれた。

県南校においては高等部のみの特別支援学校と名前のみでわかるように「〇〇高等支援学校」とした。

熊本県立 鏡わかあゆ 高等支援学校

（選定の理由）

- 「鏡」と地名が入ることで、県南校の所在地がイメージしやすい。また、「わかあゆ」からは、上流に向かって泳ぎ成長する若鮎のように、生徒には未来に向かって成長して欲しいという思いを含んでいることから、検討委員会では高い評価を得た。
- 旧氷川高校のセミナーハウスの名前が「若鮎寮」であった。また閉校記念誌の名前として「若鮎」が採用されていたこともあり、氷川高校卒業生の思いも引き継ぐことができる考える。
- 「わかあゆ」のひらがな表記については、読みさすさや書きやすさ、覚えやすさから、ひらがなを採用した。

熊本県立 かがみ 高等支援学校

（選定の理由）

- 所在地である「かがみ」は「人のかがみ」のイメージを含むことから、検討委員会では高い評価を得た。
- 「氷川」「八代」等の地名は残っていたが、検討の過程で、地域の方々に親しまれ、生徒を見守ってもらえること、学校運営には地域との連携協力が必要不可欠であることから「鏡」が残った。

熊本県立 わかあゆ 高等支援学校

（選定の理由）

- 目標に向かって成長していく子供たちのイメージに合うこと、旧氷川高校のセミナーハウスの呼称を引き継ぐことから、検討委員会では高い評価を得た。
- 旧氷川高校のセミナーハウスの名前が「若鮎寮」であった。また閉校記念誌の名前として「若鮎」が採用されていたこともあり、氷川高校卒業生の思いも引き継ぐことができる考える。
- 「わかあゆ」のひらがな表記については、読みさすさや書きやすさ、覚えやすさから、ひらがなを採用した。

鹿本支援学校（仮称）の校名案

【共通事項】

検討委員会において、地域にとって親しみがあり、また、学校運営には地域との連携協力が不可欠であるため、地域の方々と交流しやすい名称が良いという意見から、「稲田」「鹿本」が選ばれた。

熊本県立 かもと稲田 支援学校

（選定の理由）

- 「鹿本」の地名を入れることで、県民にとって所在地のイメージがしやすい。また、「かもと」をひらがな表記にすることで、やわらかいイメージを持たせるとともに、児童生徒が書きやすい。
- 今年3月に閉校した稲田小学校の跡地・校舎を活用することを踏まえ、地域と共にある学校として、「稲田」の地名を入れることで、地域住民が親しみを持てる。
- 学校は豊かな田園に囲まれており、まさしく「稲田」のイメージである。
- 「稲」という漢字を使用することで、稲穂が実り首（こうべ）を垂れる様子や、青々とした稲が風になびく様子がイメージされ、児童生徒の成長した姿や生き生きとした姿の象徴としてふさわしい。

熊本県立 稲田 支援学校

（選定の理由）

- 今年3月に閉校した稲田小学校の跡地・校舎を活用することを踏まえ、「地域に愛され、地域と共にある学校」という点で、その地域や愛されてきた小学校名を引き継ぐ。
- 学校は豊かな田園に囲まれており、まさしく「稲田」のイメージである。
- 「稲」という漢字を使用することで、稲穂が実り首（こうべ）を垂れる様子や、青々とした稲が風になびく様子がイメージされ、児童生徒の成長した姿や生き生きとした姿の象徴としてふさわしい。

熊本県立 鹿本 支援学校

（選定の理由）

- 「鹿本」の地名を入れることで、県民にとって所在地のイメージがしやすい。
- 周辺の学校の校名にも、「鹿本」がついており、地域住民にも馴染みがある。
- 鹿本地域全体で支えていくイメージを校名に持たせたい。

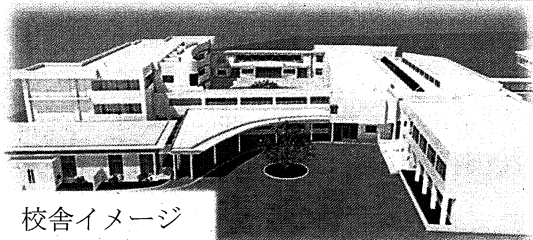
令和3年4月に開校予定の2校について

県南高等支援学校 (仮称)

応募数 144件

熊本県立

〇〇高等支援学校



校舎イメージ

1 対象及び設置学部

知的障がい 高等部

2 位置

八代市鏡町鏡村937番地 (旧氷川高校)

※松橋支援学校高等部専門学科及び高等部氷川分教室を新校の所属とします。

3 特色

- ・専門学科と普通科がある高等部のみの特別支援学校
- ・地域や社会のニーズに応じた実習に取り組む
- ・地域の特別支援教育の拠点として、小中高校からの特別支援教育に関する相談対応

鹿本支援学校 (仮称)

応募数 226件

熊本県立

△△支援学校



校舎イメージ

1 対象及び設置学部

知的障がい 小学部・中学部・高等部

2 位置

【小中学部】山鹿市鹿本町高橋638番地
(閉校後の山鹿市立稲田小学校地)

【高等部】山鹿市鹿本町御宇田312
(鹿本商工高等学校内)

※菊池支援学校高等部山鹿分教室を新校の所属とします。

3 特色

- ・地域資源を活かした教育
- ・社会参加に必要な基礎的な生活習慣等の生きる力を高めることを目指す教育
- ・多様性を認め合い、学び合い、育ち合う教育
- ・地域に貢献する学校

